

## あ　と　が　き

東海大学を辞し、跡見学園短期大学に移って早や四年半以上たってしまった。爾来、比較文学の議義を担当するかたわら、英、仏文学の接点みたいなものが見い出せないだろうかと模索していた時、たまたま神田の古本屋で買ったイヴニング・スター社刊、島田謹二著「ポーとボードレール」が一つの手掛りを与えてくれた。このテーマならどうにか興味をもてそうな気がして取組んでみたところ、自分が考えていたのとは逆に、とんでもない大きな研究課題で一朝一夕にできるような代物でないとわかった。しかし今さら途中で投げ出すもしゃくなので、短大の紀要に駄文を乗せてお茶を濁していたのである。去年の十一月に原稿を福田真一先生に持参したら、別冊紀要の候補者がいないので書いてくれないかと頼まれ、生来の呑気な性質から先のことも考えず引受けたのが、結果として自分の首を締めてしまったのである。日頃の不勉強がもろに出て原稿が遅れる一方であった。しかし、こんな怠惰な私を叱咤激励して下さったのが、同室の竹内廸也、白田紘の両先生である。たとえひどい内容の雑文でも研究の端緒を与えてくれたのも両氏のお蔭と心から感謝している次第です。またなかなか入手できない貴重な資料を探して下さった図書館の陸川博氏には大変にお世話になり、お礼の申しようもありません。

一九六一年晩秋

著　者